

中高一貫教育の導入（第二次導入校）に向けた検討事項

論点1 教育内容に関すること・・・2023年度第4回部会（1/26）
2024年度第1回部会（7/26）
第2回部会（10/9）

（1）探究学習重視型（豊田西・西尾・時習館）

（背景・基本的な考え方）

- 各校の特色を踏まえた探究的な学びを実現するための教育内容。
- 学校教育法施行規則において、中学校の標準授業時数は週29時間。
- 中高一貫校は、特例制度により、週29時間を超えて授業を実施することが可能。
- 時習館・西尾は国際バカロレアの導入を目指す。

（2）高度ものづくり型（愛知総合工科）

（背景・基本的な考え方）

- 愛知総合工科高校の充実した施設を活用した、AI・データサイエンスに興味・関心をもつ生徒の能力、可能性を引き出すための教育内容。
- 学校教育法施行規則において、中学校の標準授業時数は週29時間。
- 中高一貫校は、特例制度により、週29時間を超えて授業を実施することが可能。
- 附属中学校の卒業後は、理工科へ進学する。

【検討内容】（1）（2）共通

導入校の特色、教育課程（総授業時間数、各教科の時間数）、日課表（登下校時間など）など。

（3）地域の教育ニーズ対応型・不登校を経験した生徒（日進）

（背景・基本的な考え方）

- 不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成できる「学びの多様化学校」として設置。
- 他県の「学びの多様化学校」では、特例の教育課程として、授業時数を週29時間から7割程度に減らしたり、複数の教科を統合した教科を独自に設定したりしている。
- 附属中学校の設置と同時に、日進高校では不登校生徒に配慮した入学者選抜をスタートする。

【検討内容】

教育課程（総授業時間数、各教科の時間数）、日課表（登下校時間など）、不登校を経験した生徒への教育支援（少人数、個に応じた指導、オンラインの活用）など。

（4）地域の教育ニーズ対応型・外国にルーツのある生徒（衣台）

（背景・基本的な考え方）

- 地元中学校と衣台高校による連携型中高一貫教育を導入。
- 衣台高校は外国人生徒選抜の合格者が多く、日本語指導が必要な生徒

を全日制で最も多く受け入れている。また、東京外国語大学が文部科学省からの委託により実施している、外国人生徒の日本語能力に関する調査・研究に協力している。

- 豊田市の中学校では、充実した母語支援が実施されている。

（5）地域の教育ニーズ対応型・地域を支える人材（美和）

（背景・基本的な考え方）

- 地元中学校と美和高校による連携型中高一貫教育を導入。
- 美和高校では、2021年度から地域連携のための組織「美和高マインド」を設置し、地元自治体や商工会等と連携した地域活動を実施。
- 2025年度、美和高校に地域探究科を設置予定。

【検討内容】（4）（5）共通

連携する中学校、中学校と連携する取組の内容

論点2 教職員配置に関すること・・・2024年度第1回部会（7/26）
第2回部会（10/9）

（1）附属中学校の教職員配置

（基本的な考え方）

- 中高一貫校の教育内容や生徒への支援の実施に必要な教職員を配置。

【検討内容】

開校初年度から学校完成時までの職種ごとの教職員の配置人数、中学校教員と高校教員の内訳

論点3 その他・・・2024年度第2回部会（10/9）

（1）外部人材の配置

（基本的な考え方）

- SCやSSW、キャリア教育コーディネーター、母語支援員、日本語教育支援員など、必要となる人材を配置する。

【検討内容】

配置する職種、体制

（2）附属中学校における入学者選抜

（基本的な考え方）

- 探究学習重視型の3校では、第一次導入校と同様に実施する。
- 愛知総合工科高校附属中学校では、適性検査を実施する。
- 日進高校附属中学校では、適性検査を実施しない。

（3）連携型中高一貫校における高等学校入学者選抜

- 衣台高校・美和高校では、連携型選抜を実施する。

【検討内容】

探究学習重視型以外の学校における入学者の決定方法

論点1 教育内容に関すること（第二次導入校）

○は導入方針における導入のイメージ
⇒は各学校のコンセプト

1 各導入校の教育内容の主な特色（今回検討）

(1) 豊田西高校附属中学校

- SSHの活動をベースに、教科横断的で文理融合の探究的な学びに取り組む。
- ⇒ 実践的な英語力など世界で活躍できるコミュニケーション能力を高める学び

(2) 西尾高校附属中学校

- 地域を土台として世界を学び、「地域から世界へ」「世界から地域へ」の双方向の視点から、グローバルな探究学習に取り組む。

※ グローカル：グローバルとローカルを組み合わせた造語で、地球規模の視野で地域の課題について考えること

- 中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。
- ⇒ 「地域から世界へ」「世界から地域へ」の双方向の視点を育むグローバルな学び

(3) 時習館高校附属中学校

- SSHとAGHの活動をベースに、教科横断的で文理融合の探究的な学びに取り組む。

※ AGH（あいちグローバルハイスクール）：

文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」の取組を継承した事業

- 中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。
- ⇒ 理数教育や国際理解教育をベースとした、文理融合の探究的な学び
- ・ 高校について全日制学年制から全日制単位制へ改編

(4) 愛知総合工科高校附属中学校

- 工科高校の施設と教員を生かした中高一貫教育。
- 中学校段階からものづくりやAI・データサイエンスに触れ、中高6年間、専攻科を含めると8年間で、DXをリードする人材を育成。
- ⇒ AI・データサイエンスをものづくりに活かし、産業界を変革していくDX人材の育成

(5) 日進高校附属中学校

- 年間総授業時間数を低減できる「学びの多様化学校（不登校特例校）」として設置し、不登校経験のある生徒が、高校卒業まで安心してゆとりをもって学ぶことができる中高一貫教育。

- ⇒ 個々の生徒に寄り添った学びにより一人一人の可能性を伸ばす
- ・ 高校について全日制学年制から全日制単位制へ改編

(6) 衣台高校

- 外国にルーツのある生徒の能力、可能性を引き出す連携型中高一貫教育。
- 日本語だけでなく母語にも配慮した授業。
- ⇒ 中高連携による異文化理解、多文化共生をテーマとした探究学習、キャリア教育

2024年度：連携教育の取組を開始

【連携中学校】豊田市立保見中学校

2026年度：連携教育を受けた生徒が初めて高校に入学

(7) 美和高校

- 地域での様々な活動を通して、地域を支える人を育てる連携型中高一貫教育。
- 地域の課題やニーズに対応した教育内容。
- 地域や大学等と連携したキャリア教育の推進。
- ⇒ 中高連携による地域に関する探究学習

2024年度：連携教育の取組を開始

【連携中学校】あま市立七宝中学校・七宝北中学校・美和中学校・甚目寺中学校・甚目寺南中学校、大治町立大治中学校

2026年度：連携教育を受けた生徒が初めて高校に入学

2 部会における委員の意見

- 衣台高校の連携教育における教育理念について、「価値観や生活様式の違い」を課題ととらえるのではなく、衣台高校の宝や誇りと捉えるような表現にするとよいのではないか。
- 「給食」は中学校にとって、「食育」という1時間の授業である。また中学校の教員はアレルギー対応に神経を使っている。高校の職員にも給食の実情を知っていただきたい。
- 授業時間を増やして、中学生を教室に縛り付けることが本当に良いのか。生徒が自由に考える時間をいかに確保するかが重要である。

論点2

教職員配置に関すること

1 基本的な考え方

- 中高一貫校の教育及び学校運営に必要となる教職員を配置する。
- 中学校と関連深い高校の学習内容に中学校段階から触れることで、より深い学びに取り組むこととしている一方で、大学受験に特化した先取り学習は目指さないとしているなど、探究学習重視に見合うバランスの良い中学校教育を展開するため、国語・社会・数学・理科・英語は中学校教員と高校教員をそれぞれ配置する。
- 開校当初は、高学年の生徒が在籍しないため、中学校の内容の教科指導が中心になることから、中学校の教員を中心に配置し、3学年完成時に向けて段階的に高校教員を増やしていく。
- 附属中学校の教員の配置年数は、原則3年間とする。
ただし、大多数の者が一度に異動とにならないよう配慮し、特に、開校4年目～6年目は、教科ごとや小中学校教員と高校教員の異動者のバランスを考慮しながら、在籍5年間の上限に年度ごとに分散して異動させる。
- また、高校教員が附属中学校から転出する際は、中高6年間、継続指導ができるような仕組みを検討する。

2 第二次導入校における教職員配置のイメージ

- 基本的に一次校と同様とする
- 附属中学校の校長は導入校の高等学校長が兼務し、校長定数を活用して副校長を配置
- 教職員配置人数は、本県の中学校における学級規模別の教職員配置基準を基準とし、教諭については数人の加配定数を配置することを想定
- 国際バカロレアの導入校は、コーディネーター等必要となる定数を別途措置
- 開校前年度には開校準備員を配置

(参考) 本県の中学校における学級規模別の教職員配置基準

学級数	校長	教頭・教諭	養護教諭	事務職員	計
1学級	1	5	1	1	8
2学級	1	7	1	1	10
3学級	1	8	1	1	11
4学級	1	9	1	1	12
5学級	1	10	1	1	13
6学級	1	11	1	1	14
7学級	1	12	1	1	15
8学級	1	14	1	1	17
9学級	1	15	1	1	18

【学校ごとの配置イメージ】

○ 豊田西高校附属中学校

【() 内は小中教員】

開校	学級数	副校長	教頭・教諭	養護教諭	事務職員	計
1年目	2学級	(1) 1	(6) 9	(1) 1	(0) 1	(8) 12人
2年目	4学級	(1) 1	(6) 11	(1) 1	(0) 1	(8) 14人
3年目	6学級	(1) 1	(6) 13	(1) 1	(0) 1	(8) 16人

○ 西尾高校附属中学校、時習館高校附属中学校

開校	学級数	副校長	教頭・教諭	養護教諭	事務職員	計
1年目	3学級 相当	(1) 1	(7) 11	(1) 1	(0) 1	(9) 14人
2年目	6学級 相当	(1) 1	(7) 14	(1) 1	(0) 1	(9) 17人
3年目	9学級 相当	(1) 1	(7) 18	(1) 1	(0) 1	(9) 21人

○ 日進高校附属中学校

開校	学級数	副校長	教頭・教諭	養護教諭	事務職員	計
1年目	2学級 相当	(1) 1	(6) 9	(1) 1	(0) 1	(8) 12人
2年目	4学級 相当	(1) 1	(6) 11	(1) 1	(0) 1	(8) 14人
3年目	6学級 相当	(1) 1	(6) 13	(1) 1	(0) 1	(8) 16人

○ 愛知総合工科高校附属中学校

開校	学級数	副校長	教頭・教諭	養護教諭	事務職員	計
1年目	1学級	(1) 1	(4) 6	(1) 1	(0) 1	(6) 9人
2年目	2学級	(1) 1	(6) 9	(1) 1	(0) 1	(8) 12人
3年目	3学級	(1) 1	(6) 10	(1) 1	(0) 1	(8) 13人

3 部会における委員の意見

- 連携型の学校では、連携を仲立ちするコーディネーターの様な人員を、教員ではなくてもよいので、数人（1人、2人）配置して欲しい。
- 日進附属中学校に教員を多く配置するのは当然のことと理解できる。他の学校では、かなり手厚く配置されており、それを税金がバックアップしている。塾の情報では、中学受験が過熱していると聞いている。そこを勝ち抜ける人は、塾に通える裕福な人であり、その様な人が税金でバックアップされた学校に通うのに不公平感を感じる。
- 高校の教員も希望をもって働けるような条件整備に配慮してほしい。

論点3 その他

1 外部人材の配置

〈基本的な考え方〉

豊田西、西尾、時習館、総合工科にはSC、SSW、ALTを配置する。

〈今回検討事項〉

地域の教育ニーズ対応型の学校について、中高一貫教育導入方針で今後検討している事項や、第1回部会でいただいたご意見を踏まえて、各校のニーズに応じた外部人材の配置について検討

○ 中高一貫教育導入方針

日進

生徒へのきめ細かな支援を行うため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教員志望の大学生、キャリア教育コーディネーターの常駐化を検討する。

衣台

外国にルーツのある生徒の学習活動や学校生活を支援するため、スクールソーシャルワーカーや教員志望の大学生、キャリア教育コーディネーターの常駐化を検討する。

⇒ 各校の教育内容を実現するために、**教員以外の専門的な人材を効果的に配置**することが必要。

○ 部会における委員の意見

- ・ 連携型の学校では、**連携を仲立ちするコーディネーターのような人員を**、教員でなくてもよいので、数人配置してほしい。
- ・ **日進高校附属中学校の生徒の受け入れや入学した生徒の支援をコーディネートする人材が必要**である。教員が開校準備や日々の学校業務と並行して実施することは非常に負担である。また、**スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーは常駐**にすべき。常駐にして、日頃から子どもと生活を共にして様子を見取ること、子どもとの関係を作ることが重要である。

2 附属中学校における入学者選抜

〈基本的な考え方〉

豊田西、西尾、時習館については第一次導入校（探究学習重視型）と同様の適性検査と面接による2段階選抜を実施する。

〈今回検討事項〉

愛知総合工科について、導入方針で今後検討している入学者選考方法を検討日進について、附属中学校における具体的な生徒の受け入れ方法を検討

○ 中高一貫教育導入方針

愛知総合工科

入学者の選考方法は、**今後検討**する。

日進

不登校の状況に合わせて受け入れるため、**近隣市町村の小中学校や教育支援センター（適応指導教室）と連携して、併設中学校への学校体験や本人・保護者との面談**などにより併設中学校での受け入れの可否を決定する。**適性検査は行わない。**

不登校の状況に合わせ、在籍生徒数が募集人員の範囲内であれば、**年度途中でも併設中学校へ転入することは可能**とする。

⇒ 探究学習重視型以外の附属中学校への入学者選抜について、**各学校の教育内容を踏まえた方法**とすることが必要。

○ 部会における委員の意見

- ・ 日進高校附属中学校について、保護者面談の際に「**家庭と一体になって人材を育成する**」ことを明示するなど、**家庭も当事者として学校と一緒に教育活動を行っていく**ことを強くアピールすべき。
- ・ （中高一貫校全体について）6年間の教育が前提ではあるが、中学校卒業時に進路希望の変更があれば内進以外の選択肢も持てるような進路指導をお願いしたい。

3 連携型中高一貫教育における高等学校入学者選抜

○ 中高一貫教育導入方針

衣 台

導入方針策定時は併設型を念頭に置いた記載（併設中学校への学校体験や本人・保護者との面談、抽選（希望者多数の場合）などにより併設中学校での受け入れの可否を決定する。適性検査は行わない。）としていたが、まずは連携型中高一貫教育を導入することとなったため、連携する中学校との間で**連携型中高一貫教育校にかかる入学者選抜**を実施する。

美 和

連携する中学校の**連携型中高一貫教育校にかかる入学者選抜**や、連携中学校以外で美和高等学校の活動に参加した場合の**特色選抜の仕組み**を、今後検討する。

○ 現行の連携型選抜制度

- ・ 県立福江高校、新城有教館高校、田口高校において、**連携型中高一貫教育校の特徴を生かすため実施**。
- ・ 調査書情報の提出を求めたり、学力検査を行ったりせず、**面接の結果**、生徒が中学校において中高連携教育の下で取り組んだ学習の成果について自らまとめた「**学習のまとめ**」の発表の結果、「**志望理由**」を選抜資料として、総合的に選抜を実施。

⇒ 2026年度入学生から**連携型選抜**を実施。

市町村教育委員会と連携を密にして**連携型中高一貫教育**を推進する。

○ 部会における委員の意見

- ・ 美和高校の地域活動に対する評価は地元で非常に高い。一方で2025年度に開設する地域探究科についてはまだ浸透していない。今後の様子を見守りたい。

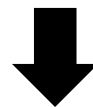
1 各高校の魅力化を後押しする方策について

(1) 部会における主な意見

- 普通科の魅力化には「生きる力」を高めることが必要で、「総合的な探究の時間」にもっと力を入れるべきである。
- 各高校のホームページの更新や中学校への訪問を専任で行う職員が配置されれば、効果的な広報が可能になるのではないか。
- 「学校の特色化」と「普通科の魅力化」は混同しないことが大切である。高校生の7割が通う普通科は、バランスが良い点にこそニーズがある。バランスの良さを、より高い質で実現することが「普通科の魅力化」である。

(2) 部会後の対応

- 第1回部会資料でまとめた「特色ある取組事例」を全高校に周知した。(8月5日に各校へ送信)
- 各高校の魅力・特色ある取組事例の投稿を受け、教育委員会のX(旧Twitter)でタイムリーに発信している。(9月2日に各校に通知)



各高校の魅力を中学生・保護者に理解してもらうために、引き続き特色ある事例を収集して積極的に発信していく。

≪参考≫ 中学生を対象としたアンケート調査の結果

8月3日(土)、4日(日)に開催した「愛知県立高校進学フェア」の来場者に進学ニーズに関するアンケートを実施した。

質問：志望校を決める際に、何を重視しますか？(複数選択可)

回答対象：中学生のみ 回答者：1,180名

	回答数	割合		回答数	割合
自分の学力に合っているか	875	74.2%	進学実績	378	32.0%
学校の雰囲気	849	71.9%	校則	299	25.3%
部活動	628	53.2%	施設、設備	237	20.1%
通学時間	628	53.2%	家族の意見	227	19.2%
学びたい教育内容がある	401	34.0%	友人や先輩の意見	98	8.3%
学校行事	395	33.5%	その他	52	4.4%

2 コース制のあり方について

(1) 部会における主な意見

- 時代の変化に伴い、コースの種類によっては教育内容が一般化・標準化している。
- コース制の魅力は中学校も感じているが、3年間学ぶことで、どのようなキャリアにつながるのかがより明確になると良い。
- コースの出口については、進路先の人数を示すだけでなく、高校卒業後にどのような分野で学んだり、働いたりしているのかの一例を示してもらえると分かりやすくなる。
- コースを専門学科にすることで、特徴をもっと前面に出した学校があってもよいのではないか。

(2) 中学生等を対象としたアンケート調査の結果

8月3日(土)、4日(日)に開催した「愛知県立高校進学フェア」の来場者にコース制に関するアンケートを実施した。

回答対象：全来場者(名古屋・西三河・東三河の3会場合計で8,312名)

回答者数：1,392名(回答率16.7%)

- ① 県立普通科高校の中には、コース制を設置して専門科目を学べる高校があります。そのような高校を知っていますか？

	全体	中学生	保護者	中学校教諭	その他
回答者数	1,392	1,180	206	2	4
はい	人数	991	834	2	3
	割合	71.2%	70.7%	73.8%	100%

- ② 県立普通科高校にコースを設置してあることが、志望校を決める際に影響しますか？ ≪回答対象：①で「はい」と回答した来場者≫

	全体	中学生	保護者	中学校教諭	その他
回答者数	991	834	152	2	3
影響する	人数	517	433	2	1
	割合	52.2%	51.9%	53.3%	100%

(3) 時代の変化や学びのニーズに応じたコースへのリニューアル

- 教育内容のリニューアル
 - ・ 探究的な学び、実践的な学びのさらなる充実
- 専門学科等への改編、増設・廃止
 - ・ 足助高校の観光ビジネスコースを2026年度に観光科に改編

フレキシブルハイスクールの進捗状況について

1 入試について

愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議の結果を踏まえ、フレキシブルハイスクールの通信制の入試については、以下のとおり。(2024年7月23日公表)

- 入試日程
 - ・ 定時制と同じ日程で入試を行う。ただし、志願変更は行わない。
 - ・ 定時制と同様、選抜を1回とし、合格者が募集人員に満たない高等学校・学科において第2次選抜を実施する。
- 入学検査
 - 面接、作文及び基礎学力検査又はそのいずれか一つ若しくは二つを行うことができる。

<参考：定時制の入試について>

- 入試日程
 - 選抜を1回とし、合格者が募集人員に満たない高等学校・学科において第2次選抜を実施する。
- 入学検査
 - 面接を行うほか、作文及び基礎学力検査又はそのいずれかを行うことができる。

2 各校の検討状況(変更となる可能性あり)

項目	佐屋高校		武豊高校		豊野高校		御津あおば高校	
特徴	・全日制の専門学科(農業科・家庭科)を活かした教育課程(定時制・通信制も選択可能) ・専門学科の行事を全日制の生徒とともに体験可能(定時制・通信制)		・3課程一体となった学校運営 ・併修を見据えた教育課程の編成 ・ICTを活用した主体的な学習(通信制)		・手厚い大学進学サポート ・ICTを活用した主体的な学習(通信制)		・言語や国際理解教育の強みを活かした学習環境 ・充実した日本語指導	
行事	全日制・定時制	共通	3課程共通		全日制・定時制	共通	3課程共通 ただし、通信制の宿泊行事は別対応	
	通信制	別対応(希望者は全日制・定時制の行事に参加可能)			通信制	別対応		
部活動	運動部	全日制と定時制・通信制で分けて実施	3課程合同で実施		全日制と定時制が合同で実施 ※通信制は希望者があれば参加可能		3課程合同で実施	
	文化部	3課程共通で実施						
制服	全日制・定時制	あり(共通の制服)	全日制・定時制	あり(共通の制服)	全日制・定時制	あり(共通の制服)	全日制・定時制	あり(共通の制服)
	通信制	なし(希望者は制服着用可)	通信制	なし(希望者は制服着用可)	通信制	なし(希望者は制服着用可)	通信制	なし(希望者は制服着用可)

夜間中学の進捗状況について

1 とよはし中学校（2025 年度開校）

（1）入学希望者説明会

- 開催日時
2024 年 8 月 7 日（水）18 時から 20 時まで
- 参加者数
25 名
- 内 容
 - ・ 学校概要説明
 - ・ 体験授業（英語・体育）
 - ・ 個別相談（希望者のみ）当日相談者 6 名（うち、入学希望者 5 名）

（2）入学者募集

入学を希望する者全員に対して、面談を実施し、入学者を決定する。

- 面談申込期間
2024 年 9 月 17 日（火）から 12 月 6 日（金）まで
- 面談実施期間
2024 年 10 月 1 日（火）から 12 月 13 日（金）まで
- 提出書類（原則、面談実施時に提出）
 - ・ 入学願書
 - ・ 在留カード両面の写し（所持している者のみ）
 - ・ 住民票の写し
 - ・ 就学履歴がわかるもの
（手元にあるもので可。就学証明書、卒業証書、通知表など）

2 とよた・こまき・いちのみや中学校（2026 年度開校）

各校ごとにワーキンググループを開催し、開校に向けて学校運営等について検討

- 出席者
設置校、設置市の教育委員会、教育事務所、県教育委員会の関係者
- 実施回数
年 3 回（1 回目：6・7 月、2 回目：9 月、3 回目：1 月予定）